

令和6年度始業式 校長講話

新学年、新学期、新クラスの初日を迎えた。「初日」って、英語で何と言うか？ first day とか、opening day とか、day one とか。

Day Oneといえば、Amazonの創業者ジェフ・ベゾスが定め、社員に訴えているAmazonのポリシー。シアトルの本社ビルも、Day One ビルと名付けられているそうだ。

Day One とは、「創業初日と変わらぬ気持ちで取り組んでいこう」ということ。Amazon の創業は、30 年前の 1994 年。ベゾスさんが自宅のガレージで創業した。名前の由来のとおり、世界最大の川であるアマゾン川のような世界最大級の企業となり、個人的にも世界一の富豪(資産 30 兆円。日本の国家予算 112 兆円の 1/4 以上)となっても、創業初日の初心を忘れまい、ということで、Day One をポリシーとして全世界の社員に徹底している。

Day One というのは、日本ふうには、世阿弥のいう「初心忘るべからず」。皆さんが本校への進学を志した時、合格を知った時、入学した時に抱いていた初心を何いま一度思い返し、初心、原点に立ち返り、新学年のスタートを切ってほしい。また、明日は入学式。中高 323 名の新入生が入ってくる。新入生の姿もよく見て、自身の初心、原点を再確認してほしい。

今日はこの際、学校としての初心、原点も確認しておきたい。

本校で、「生徒をこういう生徒に育てたい」という学校としての原点が確立したのが、明治 41 年(1908 年)。この年、行われたのが「第一次教育改革」。

「教育改革」と聞くと、新しい言葉のように思うかもしれない。しかし、「教育改革」という言葉は、明治時代に日本で近代教育制度が整備されて、まもなく使われ始めた。本校でも、明治 41 年に「第一次教育改革」を行っている。そのとき、どういうことを行ったかという、まずは学校としてのモットー、校是を決めた。それが、至誠一貫と堅忍力行。

そして、校歌を、校是をテーマとする歌詞を校内で募って改めた。最初は生徒から募ったが、校長がしっくりこなかったということで職員から募ってそれが採用された。皆さんが歌っている校歌は、そのときに作られた、2代目の校歌。

なので、「校歌を 10 字以内で要約せよ」と問われたら、「貫く至誠 堅忍力行」と答えれば満点。それ以外の言葉は、枝葉。校是の重要性を説明する材料として、当時の時代背景や価値観等を持ってきていて、そこが今日的には時代に合わないの問題視されることもあるのだが、そこは枝葉であって、根幹、本質的な部分は「至誠一貫」「堅忍力行」。これらは時代を超えた普遍性を持つ。だからこそ、議論はあっても 100 年以上この校歌が生き残ってきたのだろう。

ということで、「至誠一貫」「堅忍力行」について、Day one の今日、改めて話しておきたい。校是を決して単なるお題目にせず、実質化、日常化、血肉化していかなければならない。

「至誠」というのは、この上のない誠実さ、ということ。誠実さの中身を具体的にいえば、まずは言葉づかい。「誠」という時は、ごんべんに成ると書く。誠実さは、言葉によって成り立つ。相手が嫌がることを言ったりしない、乱暴な言葉づかいをしない。

また、時間や約束、期限を守る、掃除を丁寧にする、整理整頓する、あいさつをしっかりとる、

というのも、誠実さのあらわれである。「至誠」を励行してほしい。

次に、「一貫」には、三つの側面がある。時間、場所、対象の一貫性の三つ。いつでも、どこでも、裏表なく、誰に対しても裏表なく誠実に、ということが、「至誠一貫」。

ここで、「誰に対しても誠実に」という場合の「誰」の中には、自分自身も入る。他者に対して誠実に接するだけでなく、自分自身にもウソをつかない、自分の信じた道貫く、わが道をゆく。このような態度も「至誠一貫」に含まれる。

最近読んだ本で、特に良かったのが、『成瀬は天下を取りにいく』『成瀬は信じた道をいく』という2冊の小説。舞台は、本校と似た立ち位置にある、滋賀県立膳所高校。主人公の成瀬あかりは、入学式に丸坊主であらわれ、周囲を唖然とさせる……。あとはネタバレになるので言わないが、自分自身に対しても誠実さを貫く主人公に好感が持て、読後感がさわやかな小説だった。

実在の人物でいえば、大谷翔平選手は、まさに「至誠一貫」の人。二刀流という自分の信じた道を誰になんと言われようと貫くとともに、他者に対しても至って誠実な対応をされている。

大学入試に関しても、第一志望を現役で実現している人の特徴は、至誠一貫。時間、約束、提出物の締め切りを守り、整理整頓に心がけ、生活が安定している。自己管理がしっかりとできている。だから、受験本番でも安定してミスなく実力を発揮できるのだろう。

校歌に、「貫く至誠あるならば、天地も為に動きなん」とある。至誠一貫に努めていけば、できないことはない、という意味。至誠は他人のためならず。自分の目標を達成するためにも、日常生活において至誠一貫に心がけてほしい。

次に、「堅忍力行」。「堅忍」とは、堅く忍ぶ、よく我慢すること。しかしこれは、ただじっと我慢することではない。じっと我慢しているだけでは、状況は改善せず、かえって悪化することも多い。なので、次に「力行」という言葉が続く。「りょっこう」の「りよく」は、「努力」の「力」。「こう」は「行動」の「行」。「力行」とは、努力して行動に移していく、ということ。

例えば、ある禅寺のお坊さんに聞いた話だが、落ち込んでいる人には、掃除をやることを勧めているのだという。一生懸命身体を動かして掃除をやっているうちに、いやなことがだんだん頭から離れ、まわりも綺麗になって達成感が得られるので、良いのだという。

また、困ったときに誰かの力を借りるのも、有効な行動の一つ。例えば、自分ではどうにもならない悩みがあるようなときは、一人で抱え込まず、先生や家族、友達などに相談したりするなどの行動を起こしてほしい。必ず誰かが力になってくれる。

中学・高校時代は、「難問解決ゲーム」のようなもので、絶えず、いろいろと困ったこと、悩ましいことがおきてくる。その時に、使える「アイテム」が実はいろいろとある。「相談」とか「カウンセリング」なども有効なアイテムであり、しかも課金なしで使える。そういったアイテムもうまく使って「堅忍力行」していったほしい。

以上、校是であり、校歌の主題でもある「至誠一貫」「堅忍力行」について話をした。

もうひとつ、校是や校歌とともに、明治 41 年の第一次教育改革の際に制定されたのが「生徒心得」。その一節に、「切問近思ヲ務ムベキコト」とある。これは、学問に臨む際の心得を示したものの。ふつう、「生徒心得」と聞けば、服装や髪型など、こうせよ、こうするな、といった決まりごとを示すもの。本校が明治の第一次教育改革の際に定めた生徒心得には、学問に臨む際の心得が示されている。

「せつもんきんし」とは、どう書くか？「せつ」は、「切る」「大切」の「切」。「もん」は、「問う」「質問」の「問」。なので、「せつもん」とは、切に問う、熱心に問う、ということ。「これは、どういうことだろう？」「なぜ、こうなるのだろう？」「もっとよい答えはないか？」「もっとよい解き方はないか？」「もっとよい表現はないか？」といったように、熱心に問いを重ねていくことを「切問」という。

よく、天才の代名詞として「一を聞いて十を知る」などといわれる。しかし、そんなことができる人は、この中にも少ないだろう。ただ、「一を聞いて十を知る」ことはできなくても、「一を聞いて十を問う」ことはできる。わからないことや、大事だと思うことは自問自答を繰り返したり、いろいろな人に訊いたり、本を通じて先人に尋ねたり、AI とチャットしたりするなど、様々な方法で、様々な角度から、問いを重ねてほしい。

次に、「きんし」とは、「近くに思う」と書く。ものごとを身近なことに引き寄せて考える、これまで身につけてきた知識や経験と関連づけて考える、他人ごとではなく自分ごととして考える、ということ。

まとめると、「切問近思」とは、「熱心に問いを重ね、自分ごととして考える」ということ。元々の出典は、論語。明治 41 年の「生徒心得」に示されたこの言葉は、昭和 20 年代頃までは生徒がそらんじて実践していたという。しかし、その後、忘れられ去られていた。今日、ここに、本校の生徒が学問に臨む姿勢として 70 年ぶりに復活させたい。

「学問」とは、文字どおり「問いながら学ぶ」もの。問題意識なく、模範解答を丸暗記するような、努め強い「勉強」と、熱心に問いを重ねながら自分ごととして深く学ぶ「学問」は、明確に異なる。本校は、学問を第一とする学校。予習・復習を含めた授業はもちろん、行事や部活動など様々な場面で、「切問近思」に心がけながら学問を深めていってほしい。

例えば、学苑祭でも、どうすれば質が高い企画になるか、どうすればお客さんに喜んでもらえるか、どうすれば回転率が高くなるか、どうすれば限られた予算でやりくりできるか等々、クラスで「切問」とするとともに、クラス全員が自分ごととして「近思」しながら取り組んでみてほしい。

以上、新学年の Day One に当たり、至誠一貫、堅忍力行、切問近思の三点について話をした。この三つの言葉を私たちに残してくれた、明治の古人に恥じぬ心して、ゆめ怠るな一千人。令和6年度もよろしくお願いします。

令和6年4月8日 校長 御厩 祐司